

浅井 建爾

Vol

18

自転車と自動車、どっちが多い？

自転車は自動車とともに、庶民の足として大きな役割を担っている乗物である。どの家庭でも、自転車を一台か二台は保有しているといってもいいだろう。では、自転車と自動車ではどっちが多いか。ただ、自転車は自動車やオートバイなどと違って車検の制度がないので、いったい日本全国に何台の自転車があるのか、正確な台数をつかみにくいという面がある。自転車の保有台数は、防犯登録している自転車の台数や年間の販売台数などを基に推測しているのが実情のようだ。防犯登録していない自転車はいくらでもあるし、駅前にあふれている自転車の中には持ち主のはっきりしない放置自転車も少なくない。したがって、自転車の保有台数は自動車のように正確ではない。

自転車産業振興協会の資料によると、全国の自転車保有台数は六千九百九十九万台（二〇〇九年九月）。自動車の保有台数が約

\*自転車の保有台数及び保有率

都道府県名	自転車保有台数(万台)	100人当たりの保有台数(台)
北海道	283.4	51.1
青森	60.1	42.4
岩手	54.1	39.9
宮城	79.1	33.9
秋田	45.6	40.8
山形	53.6	45.2
福島	79.4	38.5
茨城	124.2	41.7
栃木	92.8	46.3
群馬	88.9	44.3
埼玉	543.6	76.6
千葉	376.3	61.4
東京	899.9	71.7
神奈川	531.5	60.0
新潟	112.1	46.7
富山	45.9	41.7
石川	49.3	42.3
福井	39.4	48.5
山梨	37.4	43.1
長野	83.0	38.3
岐阜	85.7	41.0
静岡	170.9	45.3
愛知	408.4	56.6
三重	103.9	56.0
滋賀	81.7	59.1
京都	165.6	64.8
大阪	651.5	75.1
兵庫	339.0	60.7
奈良	77.2	54.6
和歌山	58.4	56.2
鳥取	30.7	51.3
島根	30.7	42.2
岡山	103.5	53.2
広島	140.4	49.1
山口	67.9	46.1
徳島	44.3	55.3
香川	60.6	59.6
愛媛	77.1	52.7
高知	41.2	53.0
福岡	187.0	37.2
佐賀	38.0	44.1
長崎	31.9	21.9
熊本	74.1	40.3
大分	52.3	43.2
宮崎	41.8	36.2
鹿児島	43.5	25.2
沖縄	23.0	16.5
全国	6909.9	54.4

(財)自転車産業振興協会「自転車統計要覧」2009年

七千五百万台だから、自転車は自動車ほど多くはないということになるが、実際には自動車より多い約八千五百万台の自転車を保有しているとみられる。

自転車の保有率は都市部で高く、地方で低い傾向にある。つまり、自転車と自動車の保有率は反比例しているといってもいい。自転車はサイクルリングのほか、日常の買物や通勤、通学などにも利用されており、自宅から鉄道駅までの足として欠かせない乗物になっている。したがって、鉄道などの公共交通機関が発達している地域ほど自転車の保有率は高い。鉄道と自転車が、移動手段として一体になっていると考えられるからだ。

自転車の保有率が日本で最も高いのは埼玉県で、百人当たり七十六・六台の自転車を保有している。二位は大阪府(七十五・一台/百人)、三位東京都(七十一・七台/百人)。鉄道が網の目のように張り巡らされている東京が埼玉県より保有率が低いのは、東京では駐車場どころか、駐輪場を確保することも容易ではないのかもしれない。あるいは、東京では交通が便利すぎて自転車さえも必要としない家庭が多いのだろうか。

沖縄県の自転車の保有率は十六・五台と埼玉県の四分の一にも満たない。沖縄がこれほど極端に低いのは、鉄道がほとんど普及していないこともあって、移動手段はもっぱら自動車に頼っているからなのだろう。だが、自転車の保有率は地形も大きく影響する。長崎県が沖縄県に次いで保有率が低いのは、長崎市や佐世保市など県内の大きな都市に坂道が多いことが考えられる。坂道が多い地域では、自転車は決して便利な乗り物とは言えない。それに長崎県は沖縄県と同じように、島嶼県だということも理由の一つだろう。

自転車は健康に良い乗り物だし、環境にもやさしい。地球温暖化が深刻になりつつある現在、自転車をもっと普及させるべきだろう。だが、自転車もさまざまな問題を抱えている。駐輪場が不足しているため、駅前には放置自転車があふれ、それが都市の美観を損ねる原因の一つにもなっている。また、信号無視や飲酒運転、右側走行、二人乗り、並走など自転車に乗る人の交通マナーの悪さには目を覆いたくなる。しかも、自転車には歩道の走行が認められているので、暴走する自転車と歩行者との接触事故が後を絶たない。交通事故の二〇%以上は自転車絡

みのものだと知られていて、自転車の普及を促進する前に、これらの問題を解決することが求められている。